

なかつか 亮



少人数学級 始まる

小学校1年生と中学校1年生にて

これで全ての都道府県で導入

例えば 平塚小と日野中の新1年生で見ると

平塚小学校1年生79人

従来の40人学級 1組39名 2組40名



今年からは 1組26名 2組26名 3組27名

日野中学校新1年生118人

従来の40人学級 1組39名 2組39名 3組40名



今年からは 1組29名 2組29名 3組30名
4組30名 …と少人数学級が実現!

東京都新制度の解説：今年4月から、「小1問題・中1ギャップ」への対応とし、小1と中1において1学級40人となるごとに教員1名を増員。これにより学級数を増やすこと可能になりました。

豊かな学びの場を
小中学校における少人数学級は、保護者、先生、地域住民の長年の願いでした。
しかし、東京都や品川区の教育委員会は「40人学級が望ましい」とし導入を拒否し、全国47都道府県の中で、東京都の子ども達だけが40人学級のもとで学ぶと言う異常な状態が続いていました。
今回の実現は小学校1校、中学校2校の新1年生のみですが、大きな前進です。裏へ

品川区でも少人数学級が始まりました。東京都の新たな教員加配制度を活用し小1と中1が対象に。長い住民運動と共産党の都議団と区議団の連携が実現の大きな力となりました。
今回の実施で、全ての都道府県で少人数学級導入に。40人学級を続ける政府の姿勢がますます問われます。共産党は、他学年への拡大と国による少人数学級の実施を求めます。

実現に奮闘

少人数学級の実現を求める請願署名は毎年のように都議会や区議会に提出されてきました。住民要望の高さの表れ。共産党は保護者らと共に、その実現に奮闘しました。

これとは対照的なのが都・区議会の与党。品川区議会でも区議会与党（自民、公明、民主、無所属）はその全てに反対してきました。区議会文教委員会における過去の記事録で反対理由を見ると…。

自民党区議「40人学級でも、それ以下のところでもうまくいっている場合もあれば、もつと多くてもうまくいっている場合もある。人数ではなく学校の先生

の指導の問題だ」。

民主党区議「現実の問題としては、半数以上は実態として30人学級の状況。40人学級のままでよろしい」。

公明党区議「小学校でもう57%が30人以下だから」



半分以上が実態として30人学級の状態だから、残りの学級は40人学級で良いとの主張は全く理解できません。（議会議事録はインターネットで閲覧可能）全体的に子ども達の教育環境向上こそ重要です。

さらなる前進を

新しい制度は3年間限定の事業。都は「その後は状況を見てから」と説明します。

また小1から小2は少人数学級が継続されますが、小3以降は40人学級。中2も40人学級に戻すと説明。そのため、例えば伊藤小学校の新4年生は現在80人ですが、一クラス40人のままです。今回の前進をばねに実施拡大に力を合わせましょう。

区独自も可能

品川区の場合は現在、小中一貫教育のために加配している区採用教員をクラス担任に充てれば、区独自に少人数学級を実現することも可能です。引き続き実現に向け頑張ります。

なかつか亮



第7回区民アンケートへのご協力ありがとうございました

今年1月から実施した区民アンケートは、3月末時点で1319人から回答を頂きました。ご協力ありがとうございました。現在、中間報告を作成しています。寄せられたご意見、ご要望をしっかりと受けとめ、くらし守る品川区政を目指して頑張ります。